



委員会だより

<11月9日(日) 10名出席>

【1】財務報告：97年10月決算報告を委員会了承。

【2】お知らせコーナー：

- ① 11/23(第4日曜日)AM9:00ミサ後 馬小屋ツリー飾り付けを実施します。〔11/30(第5日曜日)待降節第一主日〕
- ② 12/14(第2日曜)赦しの秘蹟 鶴飼神父様ご指導
- ③ 10/26バザー無事終了 有り難うございました。バザー委員、壮年会、婦人会をはじめ教会の皆様のご協力で成果をあげることが出来ました。甲斐さんより会計報告。
- ④ 11/9(第2日曜日)七五三(二名) 該当年齢に関係なく子供全員にお祝いをしました。
- ⑤ 第7回聖歌の集い '98.4.19に決定。於藤ヶ丘教会。詳細は後日石井委員より発表します。
- ⑥ クリスマスパティーは10/5委員会打ち合わせ通りとすることを確認。花坂副委員長が計画し、婦人会長と相談実施。併せて神父様の叙階40周年(12/21)、80才誕生日(12/11)をお祝いします。

【3】お話し合いコーナー：

- ① 10/26バザーについて
 - a. 収益金配布(目的の中に対外支援をうたっている) 従来泉区社会福祉協議会に対して¥20,000としていたが、今回は¥50,000とします。
 - b. 収益金は信徒会会計に納め、建設会計へ¥600,000を移行します。
 - c. 壮年会、婦人会の慰労金は従来通り各¥10,000。上記a,b,cにつき委員会了承。
- ② 第230回広報なかわだ発行は11月16日(第3日曜日)になります。(岩淵氏出張のため) 緊急に広報委員助手(手伝いをして下さる方)を募ります。広報委員を増員しないと広報なかわだの存亡にかかわります。壮年会より平瀬氏協力の申し出あり、婦人会からもご協力者をお願いします。岩淵さんを中心にお話し合いをして頂きます。
- ③ 冠婚葬祭小委員会については9/7委員会で、メンバーとして壮年会 小野寺、平瀬、婦人会 位田、阿部(映)、委員会 花坂、清水の諸氏が選出されています。諸氏の都合の良い日を選び会合を持ちます。
- ④ '98年間予定表
下記を委員会にて承認
※1/25(第4日曜日) 信徒総会 ※1/11成人式(若者の集いの日) ※8/30 第9回卓球大会 ※10/25 バザー
特に1/11成人式には小野寺副委員長、井上委員の呼びかけにより、成人対象者外のすべての若者に集まってもらい、パーティーを開きます。(バザーに協力頂いた青年への謝礼の意を含め)
- ⑤ 平瀬典礼委員より聖堂内オルガンの位置、採光につきご提言がありました。典礼委員(3名)、オルガニスト(5名)、合唱隊の皆さんでお話し合いをしてまとめて、委員会に申し出て下さい。御聖堂内の事なので神父様のご裁可を頂きます。
- ⑥ バザーへの御提言がありました。参考に致します。

壮年会だより

< 11月16日(日) 11名出席>

1. 財務報告
10月分決算報告及びバザー収支報告
2. 『赦しの秘蹟』(12月14日、第2日曜日) 鶴飼神父様
3. 『第7回聖歌の集い』(来年4月19日、藤ヶ丘教会) 詳細は後日(石井委員)
4. 広報“なかわだ”の作成補助者を平瀬さんをお願いする(婦人会からも一名)
5. 第5地区宣教委員会
“地区教会マップ” 5,000部を作成。中和田教会に140部(一部140円)を配布予定。
6. 一粒会報告
中和田教会一粒会会員 - 140名(小谷さん)

婦人会だより

<11月16日(日) 29名出席>

委員会報告

クリスマス前の大掃除

12月20日 10:00～

同志会からのお知らせ

11月6日 静岡の「カナの家」に婦人会より5名の方が訪問、知的障害者のかた達と共に食事をし、彼らの明るさにふれました。そこで作っている「カナ、ボディーソープ」は純石けんで、アトピー性皮膚炎に良いとのこと。30本買ってきましたので、例会後販売致します。公報委員のお手伝いをしてくださる方を募ります。原稿を集め、ワープロの出来る方、至急お願いいたします。

バザーの反省会について

各売場での反省や要望がたくさん出ました。来年度のバザーに役立てたいと思います。皆様のご協力、本当に有難うございました。

来年度の役員候補

A地区	小山(利)さん	仲村さん
B地区	岩淵さん	町田さん(福音宣教)
C地区	橋さん	滝川さん
D地区	福島さん	下村さん

次回例会は12月21日(日)、次回当番はA地区です。



お知らせ

クリスマス (夜の御ミサ12月24日 午後8時)

御ミサ後、クリスマスと神父様の叙階40周年(12月21日)、80才誕生日(12月11日)のお祝いとを併せパーティーを開きます。

今月の予定

委員会	12月 7日
赦しの秘蹟	12月 16日
主の御降誕	12月 25日
サロン	12月 14日
レジオ	12月12,19,26



第231回

カトリック中和田教会
広報委員会発行
泉区中田北 1丁目 9-1
Tel. (045) 803-6141
1997年 12月7日



思いワズラウの事 ①

山崎 正俊



「おまえたちは、しっかりと勉強して、よい点数をとっておかないと、少年の町などにまわされることになるよ」「あの神父の姿を見るがよい。あれは、その見本だ。司教などの特別なおなさけで神父にならせていただけたとしても、ろくな働きはできない。神学校の教授たちの思い違いもいところだ。戦後のドサクサにつけこんだ巧みな身振りによって、その愚かさを目立たせなかったダマシの手口が、功を奏したというわけか」「学校の試験の問題が五問あるとすれば、そのうちの二問は、その範囲を超えた(教えられているところから類推することは出来るが、いくつかのカシコサが必要となる)もので、他の四問は教えられたものからのはずだ。それなら八十点はとれるのに、落第点だとすると、まともな復習をしていないといえる」など、なんのよどみもなく、平気で云い切れるような奴なら、欠陥人間もいところだと、反射的に感じてしまうように、そだてられているとは、これは面白い。

私などは、いまでもこの程度なので、このまえ、第四集をまとめ終えたとき、予定した傘寿を過ぎたのだと安心したせいか、今日からは、つけたりの人生になるはずだとつぶやき、それでは、勝手な熱をあげてみるのも一興であろうなどと、ちょっとした踏みちがいのイサミ足ではないかというような反省をさせられている。これでは、あの叙階二十五年記念の昼食会の挨拶で、「私の人生の終わりに近くなった」というようなことを、学生たちを前にして話した教授に似ており、これも面白い具合の語弊である。

或るとき、クツシタの足の甲のところが伝染して、約十センチほどのほころびになっているのを、白い糸でつくろい、ちょっとした芸術的な「模様」のようで、シャレているだろうと自慢気に見せていたら、「そのような感覚の奴なら、司祭としては、ふさわしくない」と云われ、「そういうような考え方があるとは知らなかった。それはたいへんだ」と胸が痛くなったというような思い出もある。これが、それほど大変なことだろうか。クツシタと同じ色の糸がなかっただけのことだったのに。その司教は、いまは亡い。それが失言か思いつきか、じょうだんなのか、その意味などたしかめようがない。このような感受性は、その他の場合に、変質した形として出易いものか。そうかも知れない、そうではないかも知れない。これなどは、なんとも、ムツカシクわかりにくいこと。

アシジの聖フランシスコさんに、おそれにも似た尊敬と信頼の念を抱いていながら、それに近寄り難いのは、どうしてか。あまりにもかけはなれた差異を感じているからで、理想化しすぎのせいであろう。考えすぎだということにしようとしてつとめているのだが、それでも、おだやかではない。聖人たちはそのまわりを、きれいなコロナ(聖い光)で満たされておられる。私はあまりにも、泥でまみれているのに、その泥からぬ脱け出す気力などは持ちあわせていない。そのための効果的な方法をとるつもりもないらしく(その内に安らってすらいるから)、他とどうしたらいいのかもしれない。神様がなんとかしてくださるはずと思っているうちに、このようになってしまったもので、すべて、なりゆきまかせ、神様のお好みまかせにというのでは、だめでしょうか。困りましたね。何とも、はや。……



谷口 アキ

私は年子みたいな三人の孫の面倒をみました。これは、私の50代のころのお話です。

共働きをしていた息子夫婦には二人の女の子がいました。また、娘のところでも来月出産という時に、これは運命だと思いましたが、娘の夫が風邪がもとで25歳の若さであっけなく亡くなってしまいました。そして、女の子が生まれました。

息子夫婦は初めから共働きだったので、出産後半年もすると仕事に出ていきました。一方娘も一年程して勤め始めましたので、私の三人の孫育てがここから始まりました。

息子夫婦が勤めに出ていくと早々に、後片づけは後にして、いちばん小さい娘の子どもを背負い、おもちゃをいろいろ持って近くの公園に遊びに出かけたものでした。孫たちと一緒にブランコ、すべり台、砂場などで遊びました。公園に行くのはいちばんよいのです。家にいて‘あれはいけません’‘これはいけません’と言って叱らなくてもよいので、お天気のよい日はもっぱら公園に行ったものです。小さい下の子は、自分も自由に遊びたいと言って、背中であばれて足を抜き出して下に降りてしまい、公園の中、砂場を這いずりまわります。歩けないのにです……。息子の子どもの刺激で負けず嫌いで、何ごととも一生懸命の様子でした。

上の子が三歳くらいの頃、午前は遊ばせて午後はお昼寝の時間にしていました。しかし、下の子たちはちゃんと寝てくれたのですが、問題は上の子でした。おむつがまだとれないのに、お口が達者なのです。この子を片付けないと何も出来ないので、おんぶして寝かせようします。私流の変な子守歌を歌いながら付近をぶらぶらしていますと、「おばあちゃん、ちょっとだまって……」と言って耳をすます格好をするのです。すずめのチュンチュン鳴いている声が、私のヘンな子守歌で聞こえないと言うのです。おむつもとれない子がこんな生意気を言うのです。それから、時々パンツに丸いものをぶらさげて歩いています。「またおもらしをしたのネ」と言いますと、「ごめんなさい」と言います。私は、「今日はだめ！いつもだから、今日はおしりペンペンよ！」とおどします。もちろん口だけです。自分の子どもではないので、ペンペンなんかしたことはありません。すると観念してか「おばあちゃん、ハンチちょうだい」と言います。私が、「ハンチ何するの？」と聞きますと、ぶたれると泣く、泣くと涙が出るからハンカチをくれということなのです。これには私も「ダーツ」でした。

いろいろまだありますが、これでおしまい……。みんなみんな20年くらい前のお話です。



湘南短期キリスト教セミナーに参加して

宣教委員 町田 保子

「尊厳ある生と死を考える」 聖ヨハネ会桜町病院ホスピス科部長、山崎章郎氏の講演より

ここへ来る患者さんの家族は、蘇生術を望んでいなかった。そっと見守りたいと言う人が多い。人間の死の場面は血圧計、心電図など器具に囲まれて、人はそこへ目が行き、死の瞬間、患者さんは一人になっている。これらのモニターがなかったら患者さんの方へ向く。最後まで耳は聞こえている。……たとえ反応はなくとも、その奥深いところで感じている。

それではホスピスは何をしているか。患者さんの肉体的苦痛を少しでも軽くするような手だてを打つ。苦痛がある時に自分の人生など考えられない。苦痛がとれた時、そこから人生が始まるのです。自分の状態について考え、生き方を考える。

癌は特別な病気ではなく、癌告知をする、しないの議論の段階ではない。真実を知るとは本人も家族にとっても大変なことです。真実を知る義務はないが知る権利はある。本人の質問には真実を答える。患者さんにとって初めての経験であるから、真実を知った上で直面する疑問に答えていく。共に歩むことをテーマとして、最後まで患者さんを中心に共に歩んで行けるのです。

進行して人生をここで終わりにしたいほどの苦痛の中でも、自分を支えてくれる人が側にいるんだと感じたとき、いつも共にいるんだよ……と可能なことには支えを惜しまない。何がしたいかの答えに患者さんは特別なことを求めているのではありません。旅行や美味しいものが食べたいとかではなく、毎日の繰り返し、平凡な出来事に感動し、大切に思えてくる。そのサポート、ケアを続けて行けば良い。

進行して動けなくなった時から心を閉ざして、真実を知らなかった方が良かったと訴える人もいる。ホスピスの病院生活は平均40日。支えるリネン、患者と家族に対するライフの向上をめざしている。イギリス 20%、アメリカ 30%、日本 1%がホスピスを受けている現状です。ホスピスが当たり前の社会であって欲しい。……と結ばれました。

1%の中に入り、自分を支えてくれた人に礼を言える人は幸せなのでしょう。また医療にたずさわる方々は多くの異論があるかとも思いました。

平成九年十一月七日

これが割算九九です。やはり忘れていませんでした。幼い時に学んだ、ソロバンに対する愛着があるものです。横浜商業（Y校）出身の森田先生、宇都宮商業を出られた伊藤先生のご指導がなつかしく思い出されます。ソロバンを目に浮かべてみてください。上を天、下を地と云い、上を五玉、下を一玉、昔は下の玉は五ツありましたが、今は四ツになっています。参考までに割算九九の便利さをご紹介します。野球の打率計算の場合

五打数二安打	$2 \div 5 = 0.4$	五二倍四	四割
四打数三安打	$3 \div 4 = 0.75$	四三七十一	四二天作ノ五
			七割五分

と求める事が出来ます。（割算九九、ソロバンに興味をお持ちの方には教授致します。）

先人の残して呉れた財産と思いますが、死物化してもう継承されないのでかと思うと悲しいものです。孫の乗算九九の勉強をみて、小生の子供時分のお稽古を思い出しました。後年造船設計にたずさわわり船舶計算にソロバンを習得した事が活用され両先生に感謝しました。

二一天作ノ五
二進が一十
三一三十一
三二三十二
三進が一十二
四一二十二
四二矢作ノ五
四三七十二
四進が一十
五一倍二
五二倍四
五三倍六
五四倍八
五進が一十
六一下加四
六二三十二
六三天作ノ五
六四六十四
六五八十二
六進が一十三
七一下加三
七二下加六
七三四十
七四五十
七五七十
七六八十
七進が一十二
八一下加二
八二下加四
八三下加四
八四天作ノ五
八五六十二
八六七十四
八七八十六
八進が一十一
九一下加一
九二下加二
九三下加三
九四下加四
九五下加五
九六下加六
九七下加七
九八下加八
九進が一十
応用編
婦一倍一
作九ノ一

娘曰く「おじいちゃん、恭行出来るでしょう」とうれしそうに話かけて来ました。孫も学校生活に慣れ、最初の関門、乗算九九に入ったのかと、うれしくなりました。九九と云えば、私にとって忘れられない思い出があります。割算九九です。皆さんご存じですか。

小生の子供時分には、「読み書きソロバン」、幼い時、祖父、父に其の必要性を良く聞かされたものでした。昨今は、電卓と云う便利なものが開発されていますが、ソロバン、計算尺、タイガー計算機、電卓と次々に成長の過程で、其の後色々な計算方法を学びました。

小一の孫が、

$$\begin{array}{l} 2 \times 1 = 2 \\ 2 \times 2 = 4 \\ 2 \times 3 = 6 \\ 2 \times 4 = 8 \end{array}$$

……と、母親(娘)の前で口をとがらせ目を丸く叫んでいました

九九

清水聖



ニサ 当番表 (97年12、98年1月)

月/日	主 日	朗読、奉納	オルガン	月/日	主 日	朗読、奉納	オルガン
12/7	待降節第二主日	小 野 寺	美 底	1/4	主の公現	岩 渕	美 底
12/14	待降節第三主日	青 年 会	石 川	1/11	主の洗礼	青 年 会	石 川
12/21	待降節第四主日	婦人会A地区	森 田	1/18	年間第二主日	婦人会B地区	森 田
12/24	主の降誕(夜半)	青 年 会	大 宮	1/25	年間第三主日	小 野	大 宮
12/28	聖家族	宮 崎	岩 渕				

※当番の方は10分前には集合して下さい。

※ご都合の悪い方は典礼委員までお申し出下さい。(萩原: TEL 802-6258)